

11 総合的な探究の時間

☆総合的な探究の時間の目標

総合的な探究の時間は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、より良く課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目標にしています。

☆各教科・科目における探究との違い

総合的な探究の時間で行われる探究は、基本的に以下の三つの点において各教科・科目において行われる探究と異なります。

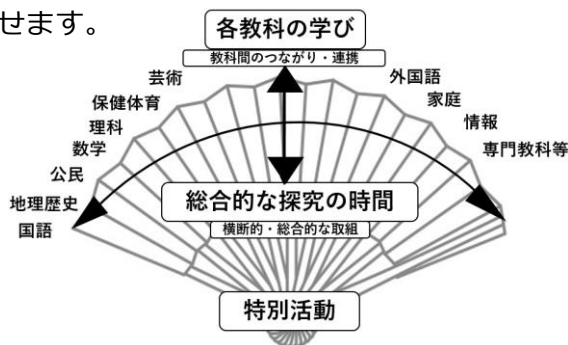
①学習の対象や領域は、特定の教科・科目等に留まらず横断的・総合的な点である。総合的な探究の時間は、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としている。

②複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究する。(各教科・科目における探究は、基本的に理解をより深めることを目的に行われる)

③解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見いだすことを重視している。

各教科の学びと往還した探究の時間の展開

総合的な探究の時間では、横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科・科目等で身に付けた資質・能力を適切に活用することが、総合的な探究の時間における探究活動を充実させることにつながります。次の図のように各教科・科目等で学んだことをいかし、総合的な探究の時間と往還させることで、生徒の学習は一層の深まりと広がりを見せます。



総合的な探究の時間につながる各教科での活動例

- ・資料活用の方法を生かして現地調査やインタビュー、文献調査などをして情報を収集する(地理歴史科・公民科)
- ・統計の手法でデータを整理して、効果的な図表で表す(数学科・情報科)
- ・複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりすることを生かして、論述し議論する(国語科)
- ・生物の多様性と生態等に関することを生かし、自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付け、変化の要因を考えながら観察、実験などを計画的に行いつつ、地域の生態系の保全計画を立てる(理科)
- ・外国人観光客への案内、掲示やパンフレットの作成などで生かす(外国語科)
- ・地域のイベントへの参画において、ポスター、イラスト、マスコットなどを制作する(芸術科)

「伴走者」として寄り添い、支援する

総合的な探究の時間において、教員の在り方はとても重要です。次のような視点を持ち、伴走者として生徒に寄り添い、支援しましょう。

コーチング

要所所で適切なアドバイスを行ったり、先々の見通しを考えるよう促したりするなど、伴走者としての意識を持って声をかけ、生徒の学習の質を高めて成長できるように支援しましょう。

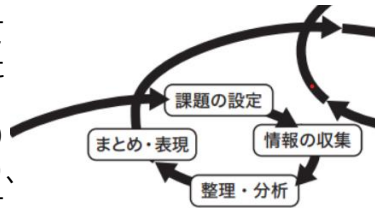
フィードバック

フィードバックで大切なことは、質(内容)とタイミングです。良質なフィードバックは学習者の内省(リフレクション)を高め、新たな問いと学習意欲を醸成していきます。

探究の過程

総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。学習過程を探究の過程とするためには、次の四つの過程が重要です。

この探究の過程は、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、順序が前後したり、一つの活動の中に複数の過程が一体化して同時に行われることもあります。



① 課題の設定 (例) どうしたら地域を活性化できるか

生徒が実社会や実生活と自己の関わりから、自ら課題意識を持ち、問いを見だし、探究課題を設定する。

★指導のポイント

- ・生徒が自分で課題を発見する過程を重視する
- ・十分な時間をかけて価値のある適切な課題を設定する

② 情報の収集 (例) 実際に町に出てインタビューする

課題解決に必要な情報を収集する。

★指導のポイント

- ・情報収集の目的を明確にして行わせる
- ・収集した情報を適切な方法で蓄積させる
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集させる

③ 整理・分析 (例) 情報を整理し、因果関係を導き出す

課題解決のために必要な根拠や理由となる情報を整理・分析する。

★指導のポイント

- ・「考えるための技法」を意識させる
- ・様々な教科等での学習成果を生かすように促す
- ・課題解決や探究活動の過程を振り返らせ、自分の取組と設定した課題との整合性を点検させる

④ まとめ・表現 (例) ポスター形式でまとめ・表現する

探究課題から結論までを自分自身の考えとしてまとめ、表現する。自らの考えや課題を振り返り、次の探究へとつなげる。

★指導のポイント

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせたり表現させる
- ・自分自身の考えや新たな課題を自覚するように促す
- ・伝えるための具体的な方法を身に付けさせる
- ・各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用させる

☆問いを立てるための視点の例

- ① 言葉の意味や定義を問う「問い」
→ ○○の意味は？
- ② 原因(なぜ)を問う「問い」
→ なぜ、生じているのか？
- ③ 信憑性を問う「問い」
→ 本当に生じているのか？
- ④ 比較を行う「問い」
→ 他国ではどのくらい進んでいるのか？
- ⑤ 先行研究・先行事例を問う「問い」
→ ○○に対してどのような取組が行われてきたのか？
- ⑥ 影響を問う「問い」
→ ○○によってどのようなことが起こるのか？

「総合的な探究の時間」参考資料

学習指導要領以外にも様々な資料やデータを活用し、より良い探究活動を実現させましょう。

① 「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開(高等学校編)」

令和5年3月 文部科学省 *活動事例も多く、特にお勧めです！

② 県立高校生学習活動コンソーシアムの取組 (神奈川県教育委員会)

③ 各教科等に関係する教材や資料集等のウェブサイトについて (文部科学省)

